



# 甲南学園100周年を前に 大学同窓生の絆深める

## 「甲南ファミリージャズの夕べ in ラヴィマーナ神戸」



乾杯の発声は立野純三会長



約400名の同窓生が詰めかけた



オープンテラスの向こうには神戸の街並み



縁日ゲーム屋台も出店

日本各地で記録的な猛暑が続く8月4日、甲南大学の卒業生とその家族約400人が集う「甲南ファミリージャズの夕べ」が、ラヴィマーナ神戸で開催された。会場となったラヴィマーナ神戸は、神戸空港島にあり、南国のリゾート地を思わせる神戸屈指のロケーションを誇る。美しい砂浜の景色、心地よい海風が、この日の暑さを幾分和らげてくれた感がある。

今回のイベントは、2017年に設立60周年を迎えた大学同窓会が、盛り上げりを来年の甲南学園創立100周年へつなごうと開催。甲南出身のプロ奏者が多いことから、「ジャズ」をテーマに企画された。

立野純三・甲南大学同窓会会長は、「本日お集まりいただいた同窓生のお子さん、お孫さんにも、ぜひ甲南大学をめざし



世界的なジャズトランペット奏者の黒田卓也さん



「SHOTA LEE BIG BAND」を率いる李祥太さん



息の合った演奏を披露する「SHOTA LEE BIG BAND」

ていただき、甲南の輪をさらに広げていきたい」と乾杯のあいさつ。同窓生たちは、青春時代の懐かしい思い出話に花を咲かせながら、美味しい料理とお酒を楽しんだ。

沈みゆく夕日を眺めながら、ジャズ演奏がスタート。ジャズピアニスト・李祥太さん(平成19年卒)率いる「SHOTA LEE BIG BAND」が息の合った演奏で、会場を大いに盛り上げた。今回は嬉しいサプライズも。何と世界的なジャズトランペット奏者の黒田卓也さん(平成14年卒)が加わり、本場ニューヨーク仕込みの変幻自在の演奏で聴衆を唸らせた。

さらに、この日は「みなとこゝろ海上花火大会」の開催日。ジャズ演奏の興奮さめやらぬまま、夜空を彩る大輪の花火を楽しんだ。この日の暑さを忘れさせてくれるほど、見所が尽きない一日となった。

2019年4月21日に創立100周年を迎える甲南学園。この日、同窓生の絆はさらに深まり、100周年記念事業の成功を誓い合った。



沈みゆく夕日の中で、ジャズ演奏はスタート

### お知らせ

10月21日(日)には、卒業生と現役学生の祭典「オール甲南の集い」を企画。いずれも甲南出身の能楽小鼓方大倉流十六世宗家で「人間国宝」の大倉源次郎氏や、サントリーホールディングス(株)代表取締役副会長の鳥井信吾氏らをゲストに開かれる。



## 甲南ブラスバンドからニューヨークへ

黒田卓也さん（ジャズトランペット奏者）



甲南中学ビッグ・バンドでトランペットに出会い、現在、ニューヨーク在住の黒田卓也さんは、日本人で初めてUSブルーノートと契約した気鋭のジャズトランペット奏者。世界的な人気ジャズシンガー、ホセ・ジェイムズのバンドメンバーをつとめる。8月4日に開催された「甲南ファミリージャズの夕べ in ラヴィマーナ神戸」に参加した黒田さんにお話を伺った。

でも音域がなかなか広がらないので、吹ける曲が限られている、そんな中で「ふるさと」は音域がそう広くなく、メロディをうろうと吹けるので、あの曲ばかり吹いていましたね。それが吹けるだけでも感動してしまふ、そうして入っていったんでしょう。

——甲南中学でトランペットに出会ったのがスタートだったか。  
——大学卒業後に、ニューヨークにあるニースクール大学に進み、音楽を本格的に学ばれました。

兄がブラスバンド部の部長をやっていた、トランペットが余っているから吹けと連れていかれたんです。12歳のときでした。高校3年になると、神戸にあったジャズクラブ「INDEED」なんか毎週行つて、プロに交じつて演奏させてもらうようにもなりました。

——なぜトランペットにのめり込まれたのでしょうか。

かなり初期の話なんですけど、トランペットって本当になかなか音が出なくて、ろくに音も伸ばせないんですが、でも日に日に、一音一音が出せるようになってく

ニースクールに入る前、大学在学中に、バークリー音楽大学のサマープログラムを受けたんですが、そこで初めて僕は音楽を学校で学んだわけです。これまでは、何回もCDを聴くなど自己流で、遠回りして身につけていましたから、あんなに悩んでいたことをこんなに整然と説明してくれるんだと、目からうろこが落ちました。この教育、施設を使ったら、僕はもっと前に進めるんだと、そこで自分の伸び代を感じて、すごく興奮したのを覚えています。

ただ、音楽学校に行くよりも



世界的なジャズトランペット奏者となった黒田さん。「甲南ファミリージャズの夕べ in ラヴィマーナ神戸」にて



「甲南ファミリージャズのタベ in ラヴィマーナ神戸」でビッグ・バンドのメンバーとして参加

### 「一番大事なことは？」

ニュースクールでは、技術や理論を叩き込まれるわけですが、いくらそれを保持していたって、心に響く演奏はそれじゃない、ということなんです。ただ、技術のごさが人の心を打つということもあるのですが、僕はメロディを大切に、感情的にどうか、ストーリーを音で伝えて人に感じてもらえるようにと思って演奏しています。単なる自分の表現の場、自分よがりの演奏になつてしまわないようにね。

「今回は甲南大学卒業生の前で演奏されたわけですが、甲南の良さはどんなところにありますか。」

非常に自由な校風で、クロウソク人間を作らないというか、一人ひとりの個性を尊重してもらいましたね。僕がいたプラスチックバンドは、先生が寛大というか何もしない人だったので(笑)、自分たちで考え、自分たちで成長したいといけませんでした。サボるの

も勝手、頑張るのも勝手、そういうアクティビティ自体が、人間として成長させてくれました。単に音楽指導が良かったというよりは、自分たちでいろいろ考えて、夏の大会に向けてああしよう、こうしようとかしているうちに、ケンカして半年間、口もきかない友達が出てきたり、その中でどうやってそれを乗り越えていくかという、今の社会の縮図みたいなものを在学中に通る経験させてもらえたっていうのは、僕の中で大きな強みになっています。

僕は毎年年末には日本に帰ってくるので、そんなときのパーティーなんかで当時の友人たちや地元の人とセッションしたりもします。

### 「印象的なアフロヘアは。」

昔からバスケットボールが好きでしたし、憧れていた髪型だったのでやったのですが、ホセジェイムズのワールドツアーに出ているもぼくの方が目立つちゃうようになって(笑)。でもアピールにはなるのでこのままでいいと思う

ています。

### 「今後の予定などは？」

交友の幅を広げていきたい、というのはずっとありますね。ジャズって、敷居だけ高くて狭いところにあるマーケットの雰囲気がある。それが良いっていう人も、嫌だっていう人もいるんですけどね。

今年の年末に、東京で20代、30代の若手ミュージシャン、ジャズに限らず音楽を追求している若い人たちを集めたイベントを

企画しています。ジャズが敷居が高いのは、東京の名門ジャズライブハウスなんか7〜8千円するんです。20代のファンにとつては高すぎる。僕にしたら20代、30代の音楽好きのエネルギーっていうのは、もつとも大切にしたいと思っています。高い料金を払わなければ聴けない音楽っていうのがジャズの問題であるし、また日本だと、ジャズをやつてマネージャーまで雇えるようなミュージシャンはなかなかいない。それらを解決するために、僕ができるのはジャズファンのすそ野

を広げること、間口を広げることだと思う。僕はニューヨーク在住ですし、こんな頭してるし、そういうことから間口が広がるかもしれない。日本とニューヨークのミュージシャン同士の交流や、ジャズミュージシャン自身がジャンルの違う人たちとも交流して横の広がりを作っていきたいです。ジャズを音楽の代表にしたいわけじゃなくて、ジャズはカッコいいって思う人を増やしていきたいです。



黒田 卓也(くろだ たくや)

1980年兵庫県生まれ。甲南中・高・大学を通してビッグ・バンドに所属。2003年ニューヨークのニュースクール大学ジャズ課に進学。2014年、USブルーノート・レーベルよりホセ・ジェイムズのプロデュースでアルバム「ライジング・サン」でメジャーデビュー。日本ではNY在住の日本人ジャズミュージシャンによって結成されたスペシャル・バンド「J Squad」のメンバーとしてテレビ朝日「報道ステーション」のテーマ曲等を手掛ける